

主な記事

- レオロジーとは…………… 1
- 家蚕のプテリジン代謝に  
関する遺伝生化学的研究…………… 2
- さろん…………… 3
- 会員近況…………… 5

# 千曲会報

昭和35年8月1日発行

長野県上田市常入  
信州大学繊維学部内  
編集兼発行人 小山長雄

信州大学繊維学部内  
発行所 社団法人千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可 毎月1日発行 定価1部15円 振替口座 長野 6243 東京 43341

## レオロジーとは

信州大学繊維学部教授 柳沢延房

レオロジーという名称はアメリカの Bingham 教授によって1928年をはじめて使用されたもので、「レオ」は「流れる」「ロジー」は「学」で、日本語は流動学である。力学の一分科としての系統的発達はその以後のことであるが、レオロジーに属する個々の問題の研究はずっと以前から行われていた。建築構造材としての軟鋼は、その主な性質が弾性であり、弾性の限界内でこれを使用することが条件付けられている。それが殆ど構造材としての使命でもあることから考えれば、理論的研究はとも角として応用的諸問題はその一点にある程度しぼられてくる。

しかし吾々の日常生活で毎日眼に映る物質や取り扱っている物質は、これを力学的に見ると、性質的に非常に複雑である。従来の材料力学だけでは手に負えないものが大部分である。

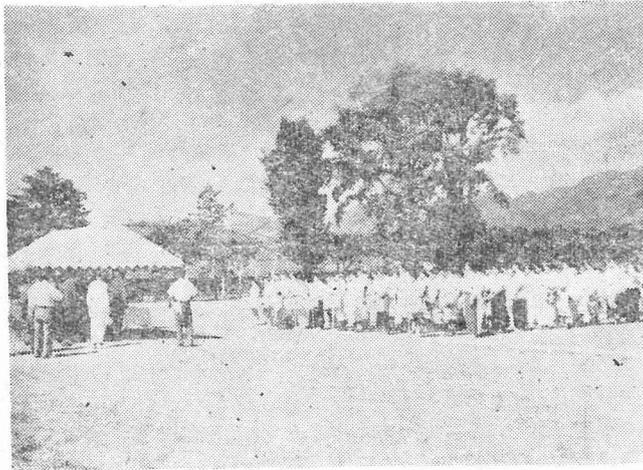
流動学第二公理によればすべての物質は弾性、粘性、塑性、強さ等の諸性質を有している。ただそれ等の性質が顕著である場合とない場合とがあり、またそれ等の性質のあるものを欠いている場合もあると考えられる。

そこで流動学を学ぶ基礎知識として、これ等の性質の一つ一つを正確に呑み込む必要がある。しかし純粋に弾性だけ、粘性だけ、塑性だけ、強さだけという物質は全く存在していない。そこでこれ等一つ一つの完全理想体を想像して、その性質、挙動をよく呑み込むことである。ごくクラシックな想像物質として、液体には Pascalian Liquid, Newtonian liquid, 固体には Saint Venant solid, Hookean solid, Euclid solid 等がある。液体は一般に粘性を持つことが考えられるが、粘性のない液体を想像して Pascalian liquid といい、また一般固体は弾性をもつが、無限大の弾性をもつものを想像してこれを Euclid solid という。これらの性質、挙動をよく体得した上で、実在物質の姿を見つめると、物質毎にその物質独自の性質があり、挙動も種々である。

それならば以上の基本的諸性質がどのように組み合わせられて個々物質の性質挙動が現われるかの問題である。

Maxwell は弾性と粘性をもつ液体系を、Kelvin 或は Voigt は弾性と粘性をもつ固体系を夫々理論的に導いた。ここで液体系というが、これは流動学上から見た液体で、棒のように見える液体系もある。同じ弾性と粘性を有しながら前者は引張試験で瞬間的に伸びるが、一定の伸びを与えて置くと応力は時間的に減少していく。後者は瞬間的に伸びないが、一定荷重の下におくと徐々に伸びていく。また荷重を取り除くと、前者は永久ひずみを残すのに対して、後者は時間経過と共に原形に復し永久ひずみを残さない。これ等二つの系列に更に適当な組み合わせを施せば、大抵の物質の性質挙動が表わされる。一般繊維の材料力学も殆どがこのうちに包含される一方塑性をあらわす Saint Venant body の他に粘性、弾性を適当に組み合わせ、ペンキ類や各種塗料の材料力学も生れてくる。以前には解決出来なかった繊維類その他の緩和、遅延現象も記憶現象も解決

出来たし、更に分子の構配列状態まで流動学的に覗くことが可能になった。ねりウドンの挙動を力学的に解決するなど軽視してはならない。こうした知識が製造機械、工作機械等の製作に必要なのである英・米・ソ聯その他各国のレオロジーの発達は目醒しく外科医学、印刷術等の進歩の一助となっている。血精の流動学的研究で病状、妊娠の有無等を判断している。物理、化学、機械、建築、土木、電気、医学、動物植物等諸学問から応用工学方面のレオロジーに対する関心は今後加速度的にその深さを増すことと思う。ここに興味あることは弱電交流理論と流動学とはその理論体系が全く一致していることであって、両者相まって今後の発展が期待される。ここに極く大ざっぱな流動学の説明を致しましたが、初歩理論を学ばれたい方は M. Reiner の「Deformation, strain and Flow」(1959)、或は本年9月発行予定(コロナ社)の筆者による上記訳書を御覧頂き度い(工博・賛助会員)



信大教職員体育大会開会式

## 信州大学繊維学部創立50周年記念事業協賛会発足す

母校50周年の記念日を祝すると共に将来への発展を期するため標記協賛会が発足致しました。同会は学部学生後援会、関係業界有志、地元官民によって賛同設立されたもので千曲会の事業祝賀計画を全面的に達成させようとするものであります。同会は会員組織で、会員から受入れた会費をもってあて業会会員の会費収入を百万円と予定し、8月末日までに納入していただくことになっており、会費は一時払を原則とし5千円、1万円、2万円の3種の会費が計画されており、千曲会の振替口座を利用出来るようになっております。

近く総会が開かれ、活動が開始される予定となっております。本会報を御覧になられる頃は力強い足取りをみる事が出来ると思います。

## 家蚕のプテリジン代謝に関する遺伝生化学的研究

—坂口文吾氏の学位論文の紹介—

母校養蚕科34回卒業生坂口文吾氏(国立遺伝学研究所研究員)は九州大学農学部から表記論文に対し昭和35年2月25日付をもって栄ある農学博士の学位を受けられた。

昆虫複眼及び卵色素の研究について、プテリジン及びプテリジン類の生化学は多く研究され、特に近年蜜蜂の王乳中にピオプテリンの存在が究明されるに至り、この面の代謝研究は大いにクローズ・アップされてきた。この論文は遺伝生化学的な立場から家蚕におけるプテリジンの代謝過程を究明したものでその業績は非常に高く海外でも評価され、現在アメリカのYale 大学に留学し研究中である。

本論文は二編からなり、第一編においてはプテリジン脱水素酵素についての酵素学的並びに遺伝生化学的研究を述べ、第二編ではプテリジンの代謝異常を伴う黄色致死蚕の遺伝生化学的研究について記述している。先づ第一編では蚕体に2-アミノ-4-ハイドロキシプテリジン(AHP)をイソキサントプテリンに変換する酵素の存在を証明し、更にこれを精製してプテリジン脱水素酵素と名付けた。この酵素はジ・フォスフォ・ビリジン・スクレオタイドを補酵素とし、その最適PHは9附近にあり、皮膚、消食管、脂肪組織、精巣、絹糸腺などに分布するが、血液中には存在しない、本酵素はまた胚子発生の進行と共に強くなり、これに伴いイソキサントプテリンの量も増加する。

正常系統及び7種の突然変異体について生活環境の各時期におけるプテリジン脱水素酵素作用と補酵素即ち水素受容体との関係につき精査した結果、従来考えられていたように酵素活性の発現に遺伝子が直接関与する場合と、水素受容体を介して間接的に関与する場合のあることを明らかにした。また本脱水素酵素がメラニンを多量に生成する突然変異に強い事実からプテリジン代謝とメラニン形成との間に密接な関連のあることが示された。

第二編においては黄色致死系統を材料とし、まづ第5令幼



虫の雌固体間で卵巣の交換移植を行なって致死時期を変換することに成功し、更にイソキサントプテリン及びキサントプテリン-Bの生成量が母体の影響を受けることを確めた。また黄色致死蚕のイソキサントプテリン含量は正常型の蚕体のそれよりも低いこと、及び第1眠期個体の皮膚組織におけるチロシナーゼ作用は黄色致死個体が正常型よりも弱いことを明らかにした。

次に硬質蛋白の生成量は正常個体の方が黄色致死蚕よりも多いことを明らかにし、更に硬質蛋白質中のチロシンその他のフェノール系物質の含量も同様に正常蚕からのものが高いことを確めた。昆虫における外皮硬化の機構は既に研究されフェノール性物質の酸化により生じた誘導体が蛋白質末端と縮合しているものとせられているので、この論文では黄色致死蚕の発現機構を次の如く考えている。即ち、最初の段階でプテリジン代謝系が乱され、これに伴ってフェノール系物質の代謝に異常を来し、ついでこの化同物を素材として作られる硬質蛋白の生成量が低下して、その結果外皮の軟弱性を招来するものと考えられる。従って大顎が軟弱となりこの遺伝子をホモにもった個体は桑葉を食い破ることができず餓死するに至る。

以上が氏の論文の概要であるが、蚕体中に新酵素を発見し精製してその性質を究め、且数種突然変異体におけるこの酵素の特異性を検討し、更にプテリジンの代謝異常を示す黄色致死蚕について、フェノールと硬質蛋白生成との関係を追究して致死遺伝子の作用機構を明らかにしたもので、酵素化学並びに遺伝生化学に大きな寄与をしたものといえよう。

尚氏は現在アメリカのYale 大学で Dr. Poulson の下で研究中であるが、努力肌の氏はこの論文に次ぎ大きな業績を残されるものと思います。現在氏は狸々蠅でCO<sub>2</sub>感受性につき見いだされた性比を変える細胞質遺伝物質について研究中で、ゾウリムシのカッパーの仕事に匹敵する位まで明らかにしようとはりきっておられます。氏の成果を期待して止みません。(文責 蒲生卓磨)



## うめ草の歌

中村六男

植物学の先生でもうめ草という代物はごぞんじないでしょう。ところが編集係の先生からうめ草の話を書けとの仰せつけです。全くこまりました。しかも堅苦しくなく、暑さを凌ぐのによいようならうめ草の話を書けとのご注文です。梅干しなら知っておりますが、こまったことにうめ草の話です。実は小生自身でもこの暑さにはやりきれないでいるところですから、他人様を涼しくさせようならうめ草を知って取りましたならば、こっそり山からでも取ってきて朝晩煎じて服用して、あつがっている世の中の間人どもを冷笑してやるのですが、ところがそういううめ草の話ではないのです。暑中見舞の広告が予定どおりに集まらず、一頁の余白ができ、その結果うめ草原稿が必要となり、編集係の先生方がご相談なされ、繊維学部でのうめ草教師である小生にうめ草文を書かせるのが最もよいと決ったのだそうです。そこでうめ草教師がうめ草原稿を書くの光榮によくするに至った次第です。そして読者の皆様を涼しくしろというのですが、小生は内心この重いつ大なる使命を果し得ないのでこまってしまう、こんなことなら小生も金百円を出して大先生然として暑中見舞をのせてもらい、身に余るこの光榮によくさなくもすむようにすればよかったと、今更百円を惜しんで一生の不覚を取ったことを後悔している次第です。

さて暑中の読み物としては怪談とか猟奇的な実話と相場が決っているのですが幽霊を見たこともなし、お化けにもでっくわしたこともない至って平凡な小生ですから、お気に召す様な実感のこもる怪談のねたは持ち合わせませんし、本などからの受売りを如何にももっともらしく書く程に読者の方々をなめてかかる厚顔さありません。それに実話といっても同じ信州大学でも繊維学部は教育学部とは違って、床下を三年間ぐらい這いまわっても人間の白骨はおろか、猫の骨すら

出て来そうもありませんからやめておきましょう。南極の話や冷蔵庫の話などは涼しそうですが、小生の生活とは全く関係のない遠い世界のことですからやめておきましょう。一生涯かかっても電気冷蔵庫などは入手できそうもありませんしたとえ懸賞か何かで入手するようなことがあっても、中に入れるものがありませんから、しょうばい道具の英語の本でも入れておくより外に使い方がないので涼しくはなりそうもありませんからやめておきましょう。

さてそんなら何の話をするのかと読者の方々はお叱りになるかもしれませんが何もお話しすることがありませんとお答えするより外に仕方がありません。ですからこれで駄文を書くのはやめにしましょう。こりや、こりや、まだうめ草の分には足りないぞと編集係の先生のお叱りの声が耳に聞えてきます。そこで釣りの話でもかくことに致しましょう。

小生はこう見えても昔十年間程釣りを雨や風の目を除いてほとんど毎日やったものです。勿論千曲川でやったのです。ですから一かどの釣りの大家と自他ともに認めてもよいのですが、そうはいきません。自らは釣り天狗になっていても、他の人は認めてくれません。もっとも獲物が他人よりいつも少ないので下手な横好きなのかも知れません。しかし釣りを楽しんだことにかけてはあえて人後にはおちないつもりです。釣りには二道があると思います。魚を釣ることに目的をおく釣り方——漁師の釣り方と釣り其物を楽しむ釣り方です。前者は実利的な有益な釣り而后者は娯楽的な無益な釣りといえるでしょう。下手だから負け惜みにそんなことをいうのだろうと云う人がおりました。あるいはそうかも知れませんが小生はいろいろな釣りをやりましたが、元来ポッカンとした性質の人間ですからポッカン釣りが一番性に合う釣りの方法です。その方法を説明するのはやめますが、釣り竿を岸に立てて、草の上に寝ころがって竿の先についた鈴の鳴るのを待ちながら眠ったり、大空に現われては消えていく雲を眺めながら冥想に耽けるのです。戦争中はよくそうしながら生死の問題を考えたものです。といてその問題の解決がたいわけでは決してありません。無益なことであつたには間違いありません。元来小生は無益なことを好む無益な人間なのでしょう。昔は英語教師は役に立たない英語を教えたり、役に立

たない英文学を楽しんだりした先生が多かったものです。特に高等学校(旧制)にはそんな先生が多かったものです。それでいながら生徒の一生に大きい感化を与える先生が多かったものです。しかし近頃は非常に実用に役立つ有益な英語の先生が多くなって来ました。本当に結構なことです。しかし内職に走りまわって金を貯めることには専念するが、生徒の人間に影響を及ぼすことの出来ない様な教師も戦後目立って来ました。小生などはその能力もないのに昔の英語の先生を真似て、学生の感化力もなく、実用に役立つ英語もできず、金もない無益なうめ草教師にますますなっていくのだからやりきれません。そんな無益な人間の考える問題は無益なことの上なしです。しかし読者諸兄よ、人生を60年とみて約2万2千回床についてならば諸兄には朝は再び来ませんぞ。50才以上の人々よ、70才まで生きるとして7千3百回程眠ってしまつと二度と醒めない眠りにいるのですぞ。小生はよく釣りをやりながら草むらの上に寝ころがった時とか、疲れて床に就く時などに、自分の一生の最後の眠りに入る場面をありありと心に描くのが癖になっております。そこでどうしてもこの無益な問題を我ながら幾分なりとも解決しようと腕いているのです。文学の問題の根本は生と死の問題にあるのではないのでしょうか。他は文学の技巧の問題に過ぎないと云つても過言ではないでしょう。安保問題の激しかった頃、ある民法の大家が岸前首相に直ちに総理大臣をやめて釣りを二、三年やれと書いておりましたが、その理由は小生には解りませんが、読者の方々もポッカン釣りでもやってこの問題を無益といわず、痛切に考えてごらん下さい。暑い夏も涼しく過ごせること請け合いですよ。

## 満州での仲間

一岡卓郎、鷹野誠一両君の想い出—

— 蕉 —

或る夏の日の早晩、たしかそれは未だ午前5時頃であつたが突然岡卓郎君に叩き起された。「斯う云うものを考えたが見て呉れ」と云つて取り出したのが後に吾々が「改良自然沈降検査法」と云う名で公表した微粒子胞子検出のための一連の用具で岡君が前夜実験室で夜を明かしして作業して来たことは明かして付け加

えれば当時新婚ながら赴任以来約2年、日曜、祭日にも殆ど実験室を離れない日常であったことである。

右の仕事につづいて岡君は柞蚕の蛹と蛾の微粒子の罹病したものの解剖的処見を明かにしたのであるが、或る年の秋種菌検査班長として出張していた際、筆者が現地視察に東道した上司に解剖した病蛹を示して説明中、突然その病蛹の血液をヒョイと舐めて「これは確かに微粒子です」と云ってその上司をいたく感動させたことを想い出す。

この二つの逸話でもわかる通り、岡君はこと仕事に関しては決して忘れてそれに打ち込むと云う典型的な学究であってこのような人を同僚として、又友人として研究室に迎え得たことは筆者生涯の誇りでもあり、喜びでもあったわけである。

岡君が故松村季美博士の助手として乃至は共同研究者として長野蚕試で優れた業績を残したことについては筆者が未だ同君を知る以前のことであるから此処には放せて触れないけれども同君が満州に渡ってからの主業績としては次のようなものを挙げる事が出来る。

#### 1. 柞蚕微粒子病の研究

前記の改良自然沈降検査法を中心とした一連の微粒子検査法の完成であって、これを土台として「無毒蚕場による無毒蚕種の増殖」と云うカイディアを生み、種菌対策の確立に寄与した。

#### 2. 柞蚕新品種「満鉄一号」「万家」の育成

田中義磨博士の柞蚕新品種育成の業務を引き継ぎ同博士の指導のもとに結菌率菌量共に1.5—2.0割増収の新品種「満鉄一号」「万家」両品種を育成し増殖態勢に移す段階までに仕上げた。

#### 3. 天蚕、柞蚕の習性を研究し、新しい飼育法確立の基礎をつくった

例えば、柞蚕の飼料樹種に対する嗜好調査、孵化、脱皮等の習性、産卵習性等優れた着想、工夫に基づく観察が記録されそれ等を土台として在来の飼育法に組合せた。

#### 4. 柞蚕の栄養生理に関する研究

この研究は同君が秘かにライフ、ワークとして選んだもののようで不幸中途で終っているけれども筆者の知る限りでも確かに2齢末までの完全な人工栄養に成功していた。

岡君にはこの他に「野生絹糸虫類文献

抄録」と云う地味な仕事がある。これは岡君が満鉄に赴任する前に筆者の着想で手をつけて居った関係上同君との共著となっているけれども実際は総て岡君の努力になるもので原稿1,200枚中筆者の執筆は僅かに数十枚に過ぎない筈である。ただこの抄録のことを此処に誌すことは前記の諸業績に比べて或いばどうかと思われる点があるかも知れないけれども、筆者の見るところでは岡君はこの仕事を完成して後にいろいろの自分の仕事を始めたのであり、それによってそれまでの野蚕研究の全貌を知り、その後の研究の方向を迷うことなく見出して行った点に重要な意義があると思う。同時に岡君の業績を思う時同君の仕事が極めて広い常識的な視野に立って独特の粘りと努力によって進められこれに周密な観察が伴ったことが特徴であると考えられ、このことは岡君の育ての親とも云うべき松村季美先生の仕事にも一脈通ずるものがあると思う。即ち両氏共極めて高度に学究的でありながら普通の飼育試験的なものに対しても（一般に学者には軽視され勝た）一つの見識をもってこれに当り、それぞれ権威のある業績に仕上げられたことである。

次に鷹野誠一君は旧満鉄農試が満州国に移管される直前に吾々のところに来て貰った人で赴任前は確か母校の助教授、満鉄在籍3日で数百万円の退職金を貰った（当時としてはこれでも相当の金額）と云うので一寸した話題になったが今はそれも思い出の一つ、それよりも忘れようとしても忘れられないのは終戦前の昭和20年の春、予ねて懸案として執筆を依頼してあった柞蚕糸検査法の改訂草案を携行して拙宅に来られ筆者と共に半日その草案の最後の検討を行ったことである。その時同君は我慢出来ない程ではないが腹痛を訴へて居り検討を終って拙宅での宿泊を勧めたのに対し、宿舎も決めてあり、医者の薬もあるしするからその方に行って悠り休むとのことであつたが思えばこれが同君の最後の公の仕事であり丈夫な日の最後となったことである。同君はその翌日虫様突起炎の手術を受け、不幸に繋る予後を迎ったのであつたから……。

この鷹野君は頭脳極めて明晰性来の勝気に加へて甚だ談論好きと云う点に特徴があり、常に一種のユーモラスな話術を用意して独特の緩衝力を見せてはいたけ

れども常に相手を説得しなければ気の済まない可成り強い性格があり、平面的家庭を極めて大切にすることを愛妻家としての良き印象が今以って残っている。

それにしても試験場に於ける同君の立場が極めて難かしいものであつたことは同君の専門が柞蚕製糸と云う工業部門に属して居り農事試験場と云う純農学の研究部門の中で良く周囲の人達と協調できたことは欠張り同君の持つて生まれた人徳と云う以外にはないと思う。

ところで同君が試験場に這入つての第一の仕事は柞蚕繭の倍付法を創案したことであつて、これは柞蚕繭は全満同一品種（それまで品種育成が行われなかつたので）であることが土台となつていたのであるが要するに繭重と繭層重との高度の相関関係を利用して、対1,000粒の繭重を秤量することによって繭質を判定し得ることを創案し、これによって公正取引を可能とする倍付法を完成したことである。このことは旧満州国では糧穀その他何れも一種の政府機関である興農合作社の公営市場で取引されるようになったためその前提としての公正取引の可能性を生むと云うことは極めて重要な意味を持ったことは云うまでもないであろう。

第二の業績は今も思い出の柞蚕繭の用途変更に伴う練繭作毛（そのまま平毛代用として使はれる）の製造法の発明であるが、これは柞蚕繭、柞蚕繭の本質（主として物理的性状）の究明の成果の上に築かれたものであつてその功績は高く評価されて良いと思う。

柞蚕糸検査法の改訂案の執筆が最後の重要な仕事となつたことは冒頭に述べたところであるが、これは不幸にして公布の段階にはならなかつたけれども好著、「柞蚕製糸業」は君の豊かな科学的視野から在来の満州柞蚕製糸の実態を把握したものであるとして好評だったものである。

以上私は昔の満州時代の今は亡き僚友2人の思い出を書いた。筆者の在満生活は前後20年、殊に満州国建國後の10年は満州千曲会の黄金時代でもあつたわけであつたから、その間に交友の機会を得た友人会員は極めて多く、筆者のながく籍をいたした試験場の在職者だけでも湯川秀夫先輩をはじめとして他にも大山巖君池田真吾君小関悦郎君等当然多くの思い出を持つ、それにも拘らず此処に同君の思い出のみを語つたのは紙面の都合もあ

り、同時に両君が直接筆者の座右にあって日常業務に互いに参劃したこと、両君共に終戦前後の紛乱の期に幽明境を異にして了ったことに対する感傷にもよる。同時に両君ともに筆者には恵まれすぎた俊秀な同僚友人であり、戦禍の彼方におき去るには余りに惜しき人材だったと信ずるからである。

私事にわたるけれども筆者は昭和16年以来それまで住み馴れた研究室の生活を離れて新京に赴任し、行政畑に移った。それと前後として満州の繭蚕界には幾つかの変更が行われた。それは前にも挙げた新しい種繭対策の確立と推進であり、(試験場—種繭場—増殖場等の一連の機関はこれによって出来た)柞蚕繭取引における格付法の実施であり、繰繭絹毛の完成であった。これ等の変革は当時の満州柞蚕界にとっては謂ば由々敷出来ごとであって或いは業界の歴史的な変革と云っても良いかも知れない。それを敢えて押し進め得たと云うことは例えば筆者周辺の興農部関係直接の同窓だけについても湯川秀夫、山本岩三郎、和田敦、大山融、出野正雄、小関悦郎その他の諸氏が互いに推進力となり協力者となって施策を推進した結果であり、当時の同窓の強力な団結を示すものであるけれどもそれにしてもその基礎資料を作って提供した両君の功績は忘却出来ないであろう。

然し満州国が存続し、その国の柞蚕業が健在ならば恐らくは両君の仕事は更に発展しその功績は燦然として輝いたであろうにも拘わらず両君共今は世に亡く、(岡君は終戦直前に召集を受け行方不明)満州国もまた無い。両君の業績もそれが外地で行われたがために、その当時の評価も薄く、今日以降想起されることもまた少ない。筆者が此処に両君の業績を顕揚しようと秃筆を呵して見ても大方の人達は無益な感傷として笑うかも知れない。なる程これは正に感傷である。然り人間は古い、そして死んで行く。たとえ学界、業界を巨歩を以ってリードした先蹤であってもその死の当日から忘れられて行く。それ等の人の業績が印刷となって青史に残り、記録となって残されようともそれが故人にとって何であろうか? 想えば人生のことは難しい。俗に云っても「生きる」と云うことの意味は筆者などには未だにワカラナイ。このことを解決した上でなければ総ての論議、すべての思索もその一切を含めて徒らな感

傷であり、感傷の所産であると云える。それを承知で敢えてこれを書くのは筆者が人生の奥義に達せず人の世の心の振れ合いに縁を感じ、宿命を想いそうした繋りに人の世の悦びを見付けようとする憐れ幼稚なロマンチストであるからである

## 会 員 近 況

### 諏訪支会総会記

昭和35年度諏訪支会総会は 5 月 8 日(日) 風薫る諏訪市南湖荘において開催当日は本部より萩原清治先生又恵南産機(株)社長(糸13)山田斧一氏にも特に御出席を願ひ20数名の支会員に囲まれ長時間にわたり歓談盛會裡に終了した。

総会議題は毎校五十周年記念事業遂行に対する協力方法に主力が注がれた。各



支会共同様大任を負うているわけであるが、当支会としてもこの事業協力の為には昨年の役員が引続き留任することが特策との結論を得、昭和35年度役員は小松氏以下留任と決定した。

尚記念事業資金は当日出席会員よりは洩れなく申込んでいただき、又不参の会員へは世話人が近日訪問の上申込みをお願いすることとなり、一同いささか肩の荷が軽くなった次第であります。

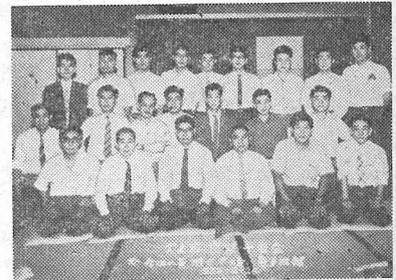
次に、御多用中の萩原先生は本日学部会議を差し置いて御来席を賜った次第で母校記念事業計画の進行状況及び最近の課題として学部機構の改革問題等につき生々生々しいところを詳細に御説明いただいた。終って懇親会に移り歓を尽し最後には名物「パッパ」を出して夜十時

半盛會裡に終了した。(茅野生記)

諏訪支会総会に出席していつもかわらぬ発潮とした清新の気にながっている会の雰囲気は敬意を表している。これも支会の中軸がエネルギーの溢れている若い会員で構成されているためだろう。会員の職種も従来の蚕糸一本を脱して公務員は勿論、機械関係、光学精密機械関係、薬品関係、醸造関係、被服製造会社、変わったところで証券会社など多種多彩でこれらの会員が少しのわだかまりもなく同窓とゆう太い一本のきずなで結ばれて和気藹々のうちに会が進められていることにも強い印象をうけた。茅野副支会長の記事のように話題は今秋の祝賀事業のことが中心であった。会の後は懇親会となり学生の頃を想い出しそれぞれの珍芸が出た。また折よく来賓となって出席された恵南産機社長山田斧一氏の中共仕込の珍かくし芸が披露され大喝采をあげて興を添え盛會のうちに有意義の総会を終った末筆ながら支会の弥栄を祈りお世話になった皆様にお礼を申し上げて擱筆する。(萩原記)

### 第2回 京滋千曲会だより

去る6月26日(日曜日)滋賀県大津市石山の瀬田旅館に於て第2回京滋千曲会が開かれましたのでその模様をお知らせ致します。



### ○ 概 況

御案内申し上げたのは81名で、参加者22名(うち1名母校より)不参加者34名御返事のなかった方が25名でした。34名の方からは、行けないのが残念だが皆さんによるしくとの誠にうれしい御便りを頂き集まった者にとっても大変力強い限りでした。又、若い会員の出席者が多く今後益々盛會に進みうるの感を深く致しました。

参加者は次の通りである。

坂口育三先生。石坂虎治郎(糸5) 甲本正道(糸7) 西島靖元(化7) 大同染工。松本昇(化7) 京都染工。松井

寛一(農1) 浜口染工。小根沢道生(学化1) 浜口染工。森雅弘(学化5) 長瀬産業。松本文善(学化3) 浜口染工。小山直方(学蚕4) 京都染工。内川善夫(学紡8) 都築紡。山岸 宏(学紡8) 綾羽紡。北沢茂樹(紡16) 東レ瀬田。高岸健次(化1) 東レ滋賀。室賀亨(学紡2) 東レ大阪。近藤伸一(紡29) 東レ瀬田。田中秀幸(学紡1) 東レ大阪。田中富男(学紡5) 東レ大阪。河辺謙(紡30) 東レ大阪。鹿野浩一(化7) 東レ大阪。小林博美(化3) 東レ大阪。小池了(学紡8) 東レ瀬田。合計22名。

○ 報告事項

△石坂虎治郎会長より、千曲会本部理事長状況報告あり特に50周年記念事業募金の総仕上げと母校学部改新実現に対する本会の協力について説明と要請がなされた。

△引続き母校坂口育三先生から記念事業の募金の成績。祝賀会日程。記念事業協賛会の発足。母校学部改新問題などについてくわしい説明がなされた。

○ 協議及び決定事項

△京滋千曲会は申込額に対する納入率は大変良いが、申込率が悪い。近畿千曲会事務局で再調査の上個別にお願いしてみる。

△35年度(4月以降)から京滋千曲会として発足出来るよう本部の承認を求める。但し会計は近畿千曲会事務局と連絡をとりながら独立へ移行出来るようにする。

△東レ大阪事務所に勤務する会員は京滋千曲会員とする。

△本日の出席者は全員通常会費及び未納会費を支払う。(35年度分会費及び未納分で10,500円が納入された)

△本年度支会役員が次の通り決定した

会 長 石坂虎治郎(糸5)

事務局長 松本昇(化7)

幹事 京都地区 久保田哲二郎(紡20) 松井寛一(農1)

〃 宇治地区 是金寛(紡22)

〃 大津地区 高岸健次(化1)

松野喬木(紡27)

△総会に際しては、約30分間の研究発表を行い相互の親睦を特に深めるように進める。(幹事が予め交渉しておく)以上

幹事 北沢茂樹記(紡16)

昭和35年度信州大学科学教育研究室第一期入室式

昭和35年度信州大学科学教育研究室の入室式は、室長小泉学部長はじめ関係者多数参加のもと、5月21日母校会議室において盛大に行われた。第一期の入室生は下記のとおりである。

入室者氏名	勤務学校名	研究学科目	指導教官氏名
山崎 袈裟恵	篠ノ井市 塩崎中学校	植物生理学・作物学・同実験	田口 亮平
奥村 秀雄	上水内 豊野中学校	〃	〃
北条 慎一	岐阜県 中津高等学校	〃	〃
高野 昭	篠ノ井市 通明中学校	数学・統計学・量子力学	佐藤 良泰
小林 英夫	小諸高等学校	〃	〃
関口 直度	岩村田高等学校	〃	〃
久保 孝	上田市 第二中学校	〃	〃
山浦 俊美	小県東部高等学校	〃	〃
青木 留一	長野市 古牧小学校	昆虫生理学・生態学・形態学・同実験	小山 長雄
山本 邦紀	更埴市 殖生中学校	〃	〃
市川 正志	小諸市 東中学校	〃	〃
栗林 田	埴科 松代中学校	〃	〃
武居 守	篠ノ井市 通明中学校	〃	〃
広瀬 幸男	〃	〃	〃
牧野 嘉雄	須坂園芸高等学校	実験遺伝学・生理遺伝学	長島 榮一
寺田 良	松代高等学校	〃	〃
和田 善三	長野西高等学校	〃	〃
宮沢 文一	小諸市 芦原中学校	分析化学・土壤肥科学	矢木 博
岡部 静	南佐久 野沢中学校	〃	〃
荻原 三博	小諸商業高等学校	農業経済学	小泉 所
佐藤 育男	小諸市 東中学校	物理学・同実験	天白 一馬
高柳 立身	野沢南高等学校	微生物学・植物病理学	松尾 卓見
田中 袈裟平	篠ノ井高等学校	〃	〃
中沢 武	須坂市 相森中学校	〃	〃
海野 訓	上田市 第二中学校	樹脂合成化学・同実験	北条 舒正
水野 浩	中野市 中野平中学校	〃	〃
木藤 沢市	下高井農林高等学校	畜産学	武田 晃
関口 輝行	北佐久 春日小学校	英語学	中村 六男

小西高雄氏ヨーロッパへ

大和紡績株式会社本社勤務の小西高雄氏(織化1)は合成繊維市場調査新製品の研究のため6月7日羽田空港発にて欧州各地に出発した。帰国は9月上旬の予定である。

丸山毅夫氏(学蚕6)米国に留学

かねてより京都大学農学部遺伝学教室(西山市三教授)に大学院学生として在学されていた丸山毅夫氏はこのたびアメリカのミズーリ大学生理遺伝学教室に大学院学生として留学することになり、去る6月30日夜羽田発の日航機で父上、同級生等多数に見送られて出発した。学部

が大学として発足してから初の外国留学と生じたおかげで、同氏の今後の研究成果が期待される。

住所は  
TAKAO MARUYAMA  
203. Curtis Hall, Univ. of Mo.,  
Columbia, Mo., U. S. A.  
(西尾泰徳・学蚕6)

寺田良(農3)和田善三(農3)両氏奨励研究費助成さる

○オンロイ花色に関する遺伝生化学的研究 松代高校 寺田 良  
○リンドウ科植物の細胞学的研究 長野西高校 和田 善三  
上記研究に対し両氏は小、中、高校教員の文部省研究費を交付された。尚他にも多くの会員が補助された事と思えますから続々と現れることを切望します。

信州大学繊維学部創立50周年記念祝賀会業務分担

順序不同、敬称略

(千)印は千曲会員(学部外)を示す

名誉会長 伊藤武男

顧問 上田市長 商工会議所会頭 上田市議会議長 信大事務局長 学生後援会長 林貞三 佐藤利一 佐藤春太郎
古谷栄蔵 蒲生俊興 倉沢美徳 八木誠政 高木三治 野崎清 橋詰英雄
会長 小泉清明

副会長 三浦乾太郎 大平敏彦 具祐吉 事務長 千曲会理事長
総務委員 (長)野口新太郎 (副)清水 運策 (委員) (千)猪坂直一 清博 武進 留蔵 雄
(長)野口新太郎 (副)清水 運策 (委員) (千)猪坂直一 清博 武進 留蔵 雄

会計委員 (長)清水 運策 (副)町田 博 (委員) (千)小宮山太助 宮城 博 荒井 猛 笠原 義人 窪田 敏作 中山 吉三
(長)清水 運策 (副)町田 博 (委員) (千)小宮山太助 宮城 博 荒井 猛 笠原 義人 窪田 敏作 中山 吉三

宿泊委員 (長)小泉 所 (副)高木 春 (委員) (千)原山坂崎 正利 己夫 治冲
(長)小泉 所 (副)高木 春 (委員) (千)原山坂崎 正利 己夫 治冲

式場委員 (長)荻原 清 (副)天白 一 (委員) (千)井向益小柳矢境 三弥実定治 西正治
(長)荻原 清 (副)天白 一 (委員) (千)井向益小柳矢境 三弥実定治 西正治

接待委員 (長)柳沢 延 (副)坂口 育三 (委員) (千)山崎小古松宮塚吉増大平 寿幸紀江正サ子悦路
(長)柳沢 延 (副)坂口 育三 (委員) (千)山崎小古松宮塚吉増大平 寿幸紀江正サ子悦路

祝宴委員 (長)会田 源 (副)中村 六男 (委員) (千)和田善之助 菅助寛 櫻井 隆夫 茂隆 石川 博 田中 一行 小平 信吉
(長)会田 源 (副)中村 六男 (委員) (千)和田善之助 菅助寛 櫻井 隆夫 茂隆 石川 博 田中 一行 小平 信吉

講演委員 (長)田口 亮 (副)隅田隆太郎 (委員) (千)小林隆美 矢島隆美 善隆 正一 香掛 久雄 小山 長雄 篠原 清 清水 源太郎
(長)田口 亮 (副)隅田隆太郎 (委員) (千)小林隆美 矢島隆美 善隆 正一 香掛 久雄 小山 長雄 篠原 清 清水 源太郎

祝賀行事委員 (長)羽島不二夫 (副)松尾 卓 土屋 敦博 (委員) (千)櫻井 健 谷 北条 今 川上 保人 武田 晃 櫻井 千之 鶴田 定平 彼末 武猪 新野 武男 高橋 誠
(長)羽島不二夫 (副)松尾 卓 土屋 敦博 (委員) (千)櫻井 健 谷 北条 今 川上 保人 武田 晃 櫻井 千之 鶴田 定平 彼末 武猪 新野 武男 高橋 誠

展覽委員 (長)三浦乾太郎 (副)山口定次郎 (委員) (千)香山林尚一 久間 秀治 宮原 今朝 中島 美明 井路 松井 清水 藤井 富美 内川 長島 清道 伝 船後 勇平 北条 舒正 松橋 周一 大沢 宝市 遠藤 恒久 宮原 栄
(長)三浦乾太郎 (副)山口定次郎 (委員) (千)香山林尚一 久間 秀治 宮原 今朝 中島 美明 井路 松井 清水 藤井 富美 内川 長島 清道 伝 船後 勇平 北条 舒正 松橋 周一 大沢 宝市 遠藤 恒久 宮原 栄

警備委員 (長)矢木 博 (副)土屋 敦博 (委員) (千)荒木 町松 井 香博 信 山崎 後藤 保 春永夫 江口 池尾 清水 晴雄 一 謙平 小山 祖光 矢彦 清允 小林 忠雄 池田 正五郎 滝沢 大 中木 武
(長)矢木 博 (副)土屋 敦博 (委員) (千)荒木 町松 井 香博 信 山崎 後藤 保 春永夫 江口 池尾 清水 晴雄 一 謙平 小山 祖光 矢彦 清允 小林 忠雄 池田 正五郎 滝沢 大 中木 武

50周年記念事業募金申込及納入状況

(35. 7. 28 日現在)

支会名	募金申込額		募金納入額		申込率%
	人員	金額	人員	金額	
北海道	5	14,500	5	13,500	40.2
北 奥	30	52,400	28	46,900	70.8
山 形	17	60,500	17	59,000	99.2
宮 城	27	89,500	25	46,900	151.7
福 島	57	159,500	49	130,500	114.7
茨 城	44	80,500	37	62,500	72.7
栃 木	21	41,000	21	41,000	67.2
栃 群	104	269,300	27	70,000	92.4
埼 玉	102	298,000	41	107,500	100.0
千 葉	20	70,000	20	67,000	114.8
東 京	168	482,100	128	392,100	68.4
神 奈 川	58	163,000	45	118,000	68.6
山 梨	24	54,000	23	52,000	78.3
山 越	21	61,000	21	52,500	58.0
富 山	43	90,500	37	82,500	101.7
石 川	19	43,250	18	40,800	86.0
福 井	13	35,200	8	22,000	88.0
北 佐 久	32	107,400	23	58,900	59.0
南 佐 久	30	65,500	25	49,500	97.8
上 学 更	159	477,300	97	248,200	62.0
小 内 埴	98	464,500	81	310,900	178.0
北 信 濃	69	183,900	41	98,200	83.2
北 安 謙	98	246,500	72	173,500	61.5
筑 訪	87	212,000	61	140,500	82.8
竜 崎	35	215,000	13	52,500	106.9
竜 崎	23	52,500	14	25,500	46.9
岐 静	32	93,500	27	81,500	64.0
愛 知	20	61,500	6	20,000	58.0
三 重	208	416,600	194	379,800	106.5
近 畿	61	153,600	46	106,400	128.7
兵 庫	99	259,000	99	259,000	66.2
三 丹	67	178,100	13	27,300	117.9
山 陽	46	164,500	46	154,500	152.3
山 陰	39	109,000	37	103,000	44.9
山 德	18	47,000	13	32,000	78.3
島 知	15	45,500	14	44,000	111.0
高 知	9	17,500	8	12,500	116.7
愛 媛	21	80,000	18	53,000	101.3
香 川	1	10,000	1	10,000	50.0
北九州	30	84,500	20	54,000	50.6
熊 本	12	29,500	12	29,500	50.0
宮 崎	7	26,500	6	21,000	73.6
鹿 児 島	12	32,000	9	24,000	80.0
台 湾	2	5,000	1	3,000	29.0
計	2,103	5,848,650	1,547	3,977,400	83.0

50周年記念事業募金申込

- ①北海道支会  
5,000円 池田正五郎(薬11)  
2,000円 長瀬深見(薬5)
- ②埼玉支会  
2,500円 花崎剛行(薬33后)
- ③千葉支会  
3,000円 影山省三(薬32)
- ④神奈川支会  
13,000円 会田誠司(薬25)  
3,000円 牧野 弘(薬11)  
根岸市郎(薬90)  
1,000円 林 弘(学薬4)
- ⑤越後支会  
2,500円 飯塚孝一(薬76)
- ⑥上小支会  
3,000円 平尾孝平(薬19)  
2,000円 近藤員安(薬26)
- ⑦北信支会  
3,000円 西原淳一(薬17)  
2,500円 杉崎義朗(薬34)  
2,000円 小松 典(薬35)  
1,500円 木内秀雄(学薬1)  
清水比呂夫(薬28)  
1,000円 下川又敏(学薬3)  
佐藤忠男(学化7)  
山崎 要(薬34)  
広岡忠典(薬37)  
佐藤忠夫(学薬3)  
松永典雄(薬2)  
丸山肇(薬33前)  
永井昭雄(薬4)  
柳沢基(学薬2)
- ⑧安筑支会  
1,000円 清水岩雄(化2)
- ⑨諏訪支会  
1,500円 山根隆久(学化1)  
1,000円 小林喜原(薬別1)  
神田春茂(学薬5)
- ⑩竜川支会  
1,000円 三村大八郎(薬32)
- ⑪岐阜支会  
1,000円 関 文男(学薬2)
- ⑫愛知支会  
1,000円 木内寛(学紡5)  
中島美智男(学紡6)
- ⑬三重支会  
1,000円 岡本克己(学薬5)
- ⑭近畿支会  
10,000円 小湊 潔(薬4)  
5,000円 甲本正道(薬7)  
2,500円 浅田 進(化5)  
2,000円 岡田 純(農2)  
白沢 清(化8)  
1,000円 瀬下忠嘉(学薬4)  
小松好人(学化6)
- ⑮兵庫支会  
5,000円 立岩美保(薬3)  
4,000円 浜田秀弥(薬26)  
3,000円 神壽 治(薬2)  
1,500円 川上寿久(学薬1)
- ⑯熊本支会  
1,000円 中島文雄(薬9)
- 小計 107,000円  
累計 5,328,950

# 母校だより

○7月11日(日)から夏季休業になり3年生、別科生は関係会社、試験場等へ学外実習に出かけた。

○7月16日、17日の土曜日曜の2日間信大教職員は体育大会が開催された。各種目において活躍を早した。母校の成績は硬球卓球に優勝し総合成績で2位となった。なお1位は医学部である。

## 本会日誌

○6月26日京滋支会総会に本会より坂口理事出席

○6月29日学内理事会開催

○7月9日山陽支会東部地区7月10日西部地区(総会)開催本会より野田理事出席

○7月12日50周年記念事業協賛会発起人会を上田市役所において開催、市および商工会議所の協力懇請に対し心よい承諾を得た。なお協賛会発起式は7月中旬に開催することを決定した。

7月14日会報編集委員会開催

## 八木誠政氏渡欧

八木誠政氏は日本学術会議代表として国際気象学会、国際昆虫学会に列席のため8月11日羽田発にてロンドン・ウィーンに出発予定です。御健勝をお祈りし会議の成果を御報告致します。

## 御知らせと御願い

別掲の如く学部50周年記念事業協賛会が発足致しました。会員諸員にはかねてから御協力をいたしておりますが、本会といたしまして業界一般の御協賛をも得るべく努力中であります。しかし乍ら何分にも業界は全国にわたっており、また本学内の事情も考慮されます。つきましては本会からの連絡がございました際は何分側面的の御援助を賜りますようお願い申し上げます。

暑中御伺い申し上げます  
編集部 一同

## 編集後記

7月中旬母校で行われた信大教職員体育大会の日から夏夏の日となった。1960年は学部も当り年で夏休みに入るが教職員は休まずです。

京滋支会が発会会員の計画性ある集いは本会発展のため快くたまえせん。

編集理事 田口 亮平 白井 美明  
編集部員 小笠原貞次 滝沢 達夫  
徳原 昭 矢彦沢清允  
藤旗 剛寛 白井 要範